



夢は自分の口で語ろう！

校長 永井 有司

早春の候、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、2月～3月の給食の時間に、6年生との会食を行っています。6年生にとっては、卒業を間近に控えたこの時期の事だけに、小学校時代の思い出の1ページとなるでしょうし、自分の気持ちをはっきりさせる場ともいえます。それは、会食に当たって、以下の3点について答えてもらっているからです。



= 蠟梅 =

- ①6年間で一番の思い出は？
- ②中学校生活で頑張りたいことは？
- ③将来の夢は？（職業、実現したいこと、行きたいところ等）

①については、圧倒的に「修学旅行」「館岩自然の教室」が多いです。6年生とは、両方とも一緒に過ごしましたので、その時の思い出が蘇ってきます。大自然の中で、友達と過ごした日々は、一生の宝となることなのでしょう。それ以外の思い出では、友情について語る子もいました。「ケガをした時に友達に助けてもらった」「泣いている時に慰めてくれた」等です。人の温かさに触れて、それを大切に心に抱いて人生を歩めれば、きっと辛いことも乗り越えることができると思いました。

②については、「勉強」か「部活」の2つにほぼ大別されます。今の子どもたちは、つぼみの日で中学校を訪問することもあり、私の時代よりも中学校の情報をもっています。勉強については、「得意な教科を伸ばしたい」「苦手な教科に取り組みたい」とそれぞれですが、小学校時代の反省を生かそうという姿勢が見られました。部活については、中学校の部活の状況や顧問の先生の事まで知っている子もいました。中学校生活に向けての思いが伝わってくるようで、頼もしく感じました。

③については、将来の職業を語る子が殆どです。「将来の夢」は実現できる場合もできない場合もあるでしょう。けれども、実現に向けて努力した事は決して無駄になることはありません。また、成長するに従って新しい世界が開けてくるかも知れません。とにかく夢を語ることによって、自分の夢を再確認し、それに向かって努力しようという気持ちが芽生えてくるという効用があります。今後の子どもたちの活躍が目に見えるようです。

まだ、半分しか会食は終わっていませんので、「興味深い発言も出てくるかも知れない」と期待しています。翻って、私自身が小学生の時の夢といえば、「早く大人になりたい」くらいしか考えていなかったような気がします。高度経済成長期に子ども生活を送ったためか、その日その日を生きるのに精一杯だったのかも知れません。夢を語る子どもたちが眩しく見えました。

——1年間、大変お世話になりました——

お陰様で、大きな事故等もなく3月まで迎えることができました。子どもたちが安心して学校に通うためには、学校と家庭、さらには地域社会の連携が不可欠です。この3つがよいトライアングルを形成して初めて子どもの健全育成が図れると考えております。今年度も、保護者の皆様のご理解・ご協力に支えられ、地域の温かい眼差しに守られて子どもたちもすくすくと成長していると感じ、感謝にたえません。とはいえ、改善を図らなければならないことも数多くあります。今年度の反省を生かし、よりよい教育の実践に向けて全力を尽くす所存です。来年度もよろしく願いいたします。